

令和5年3月31日  
行政改革推進会議

# 有識者構成員 事前提出意見

令和5年3月31日

行政改革推進会議議長  
岸田 文雄 様

行政改革推進会議構成員 漆 紫穂子

### 意見書

今回の行政改革推進会議を欠席するため、書面にて下記のとおり意見を提出する。

### 記

- EBPM の手法を活用する方針に賛成する。政策の費用対効果が高まることを期待する。
- レビューシートについては、形だけにならないよう、なぜこれが必要なのかという本質を各省庁が理解し、実質的にワークするものにすることが肝要。
- 上記に関連し、レビューに参加して感じた課題をあげる。
  - ゴール設定そのものに課題がある場合が見られる。抽象的で定量評価がしにくい、最終アウトカムの前段階で止まっているなど。
  - アウトカムの数字に、インプットの事業が関連していないなど、中間指標がゴールにつながるものでなく、プロセス管理の意味をなさないケースが見受けられた。
- アジャイル型によって、試行錯誤が許され、よりスピーディーに効果の高い政策が実施されることに期待する。そのためには、予算を使い切らなかったことで次年度に削減されるというようなことがなく、用途変更も認められる仕組みが必要と考える。
- 現在は、改善の途中であるため、この会議においても手法の議論をせざるを得ないが、仕組みを整えつつ、ここはさらに大きな枠組みの議論の場となればありがたい。

以上

令和5年3月31日

行政改革推進会議議長  
岸田 文雄 様

行政改革推進会議構成員 鈴木 亘

### 意見書

今回の行政改革推進会議を欠席するため、書面にて下記のとおり意見を提出する。

### 記

- 近年多くなってきた基金の行政評価については、まだまだ課題が多く、今後、研究が必要と思われる。
- 基金はその性格から、単年度主義の延長で評価するわけにはいかず、中長期的視野から、その目的や達成状況を評価する必要がある。単年度では、進捗状況を最終目的、目標から逆算して評価することになるだろうが、基金によって期間もバラバラであるし、進捗のスケジュールも異なると思う。
- そのような多様な基金をどのようなフォーマットで評価していくかはやや難しい課題であり、諸外国の行政評価の例などにも学ぶ必要があるのではないか。

以上

令和5年3月31日

行政改革推進会議議長  
岸田 文雄 様

行政改革推進会議構成員 土居 丈朗

### 意見書

今回の行政改革推進会議を欠席するため、書面にて下記のとおり意見を提出する。

### 記

- 昨年11月に開催された「秋のレビュー」での議論を踏まえ、当会議の第51回会合（令和4年12月21日）において岸田総理からのご指示を受け、行政事業レビューシートと基金シートの見直しは、今回の会合において具体的に示されたことは、大いに評価できる。見直されたシートには、ロジックモデルが埋め込まれるなど、我が国の行政において今後EBPMを内発的に進めてゆく上で非常に有意義である。
- 特に、見直されたシートは、ロジックモデルとして、インプット→アクティビティ→アウトプット→初期アウトカム→中期アウトカム→長期アウトカムを、定量的な指標とともに個々に明記する欄を設け、これらの一連の流れを有機的に関連付けるように意識づけるフォーマットを提供している。
- ロジックモデルに馴染みが薄い事業担当部局もまだある現段階においては、まずは形から始めることで、政策効果の発現経路など、ロジックモデルに内包される考え方を全府省に浸透させてゆくことが期待される。そのことは、我が国の行政においてEBPMを実践してゆくための重要な基盤を構築することにつながる。
- 加えて、今回の会合で提示されたように、外部有識者を交えた政策効果の点検を強化すべく、点検プロセスを見直すことも重要である。当会議の下、EBPM推進委員会、EBPM・歳出改革等有識者グループを有効に活用しながら、引き続き行政事業レビュー等に取り組んで、国民に喜ばれる行政を一步一步実現してゆくことを期待したい。

以上